

1 教育目標及び子ども像・教職員像・学校像

教育目標

社会を心豊かに、たくましく生きぬく生徒の育成

目指す子ども像

- 自分を大切にでき、自分に誇れる生き方をする生徒
- 自分と仲間の良さを発見できる生徒
- 仲間を大切にできる、優しさと思いやりのある生徒
- 自分から学習と進路に向かうことができる生徒

目指す教職員像

- お互いの人権を尊重し、互いに支え合う教職員集団（尊敬と信頼で結ばれた教職員集団）を目指す。
- お互いの良さを発見できる教職員集団を目指す。

目指す学校像

- 誰もが通いたいと思える学校
- お互いの人権を高め合える学校
- 「人・もの・時」を大切にできる学校
- 花や緑でいっぱいの学校

2 学校経営方針

1. 校長を中心に全教職員が「学校教育目標」や「目指す生徒像」を達成させる共通の目的意識をもつ集団を創造する。
2. 運営委員会・学年会・教科主任会、各種委員会等を機能的に運営しながら、相互啓発及び指導姿勢の一致を図り学校改革に取り組む。
3. 学習指導、生徒指導、健康・安全指導、同和教育、男女平等教育、総合育成支援教育、外国人教育、性教育等すべての分野・領域において、各チーフのリーダーシップの下に、学校体制で創造的実践を推進する。

3 学校教育の計画

(1)「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

平常授業を大切にする（自ら学び・考え、互いに学び合う授業の推進）

具体的な取組

- ・言語活動の充実を意識した授業の展開
- ・「確かな学びの手引き」の学習指導計画・評価計画に従い、生徒が自ら学び・自ら考え、自己有用感を育む授業の推進（「確かな学びの手引き」を生徒や保護者にさらに見やすくするための改訂を進めていく）
- ・一人ひとりに焦点を当てた分割授業や習熟度別授業の推進（2年数学、3年英語で実施）
- ・読み書き計算力など基礎・基本的な学力の徹底と確実な定着
- ・LD等支援を必要とする生徒への学力向上の研究とさらなるはたらきかけの推進
- ・ICTの活用やワークグループによる学習等による生徒の情報発信スキルやコミュニケーション能力の向上
- ・課外授業（朝学習・朝読書・放課後補充学習会・テスト前学習会・長期休業での補充学習等）の活用と計画的な実施

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

自分や他者を大切にでき、自分に誇れる生き方ができる生徒の育成を推進する。

具体的な取組

- ・日頃の授業、部活動、学校行事等で、自分や仲間のいいところを積極的に見つけようと努力することの大切さを理解させる取組を工夫する。
- ・授業、部活動、学級の中で、仲間の思いに心を傾け受け入れ、また、仲間に知られたくないこと、しゃべりたくないことも安心して話すことができる学校の中での空間づくりに取り組む。
- ・生徒会が主体となった基本的生活習慣の点検等をさらに生徒自らが工夫しておこない、生徒の自浄能力を高める企画を推進する。
- ・自分の権利を主張するときは、まず自分が学校（社会）のルールを守ることがスタートであることを理解させる。規範意識を育てる授業（特に道徳）を推進する。
- ・さまざまな人の思いや生き方に触れる体験をする場や、視野を広げる場をできるだけたくさん提供し、仲間や教職員・保護者と共に心揺さぶられ感動を味わうことで、心技体を成長させることを推進する。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自分の体を大切にし、より健康な生活を実践できる生徒を育成する。

具体的な取組

- ・朝学活時の健康観察を徹底し、それを通して、生徒一人ひとりが自らの健康に対する意識を深められるようにする。また、「早寝、早起きをし、睡眠をしっかりとり」「朝食をしっかりとり」「毎日排便する」等、基本的生活習慣の確立に向けた保健指導を充実させる。
- ・朝食、ベル着、遅刻、忘れ物等をなくす運動を、生徒が主体となって取り組めるようにする。その際、互いに呼びかけ合ったり励まし合ったりしながら完全達成を目指すことの重要性を学ばせたい。
- ・不審者、火災、地震等の訓練を定期的実施することで、緊急時に正しい行動がとれるように指導する。避難する際の重要な点である「お・押さない、は・走らない、し・しゃべらない、も・もどらない、て・低学年優先」を再確認する。